

## 在留邦人学び合い講習会における冒頭発言(5月8日)

お忙しいところご参集頂きありがとうございます。本日はロングウェでお子様は育てる在留邦人の保護者とお子様を対象に、マラウイでお子様を育てるにあたっての課題を相互に学び合う場として、はじめての試みではありますが、意見交換の場を設定させて頂きました。今日は日本語を維持するための工夫と努力をテーマにつき意見交換をできればと思います。有意義な場になることを願っております。お子様方には、こどもの日にちなみまして、大使館で文化交流のための活用している鯉のぼりや5月人形も楽しんで頂こうと思っています。外地にいるからこそ日本文化にふれる機会は特別な意味があると思います。

私は家内とともに1月12日に当地に赴任して4ヶ月になりますが、前任地の南アフリカ、オーストラリアのパース、ケニアではいずれも日本人学校に関わって参りました。3人の子供とも、ヨハネスブルグの日本人学校とナイロビの日本人学校でお世話になり、家内はヨハネスブルグ日本人学校の文部省派遣教員でした。私自身、バンコク日本人学校で学び、ローマのインターナショナルスクールで高校を卒業しましたし、ウガンダのセーブザチルドレンにつとめる長男はカンバラの日本語補習校で教えています。こうした経験を踏まえ、外地での教育につきまして思うところを3点申し上げます。

第一に、今のお子様方の生活は、長い人生においてあとで振り返ってみると貴重な時間であるということです。マラウイでお子様を育てる決断をされた皆様ですので、十分意識されていると思いますが、思春期に海外で教育を受け、他文化と接した経験は、その後の留学や職業選択など場面や生き方そのものにプラスの影響を与え得る大きなアセットになります。家族とも極めて近い大切な時間を過ごし、日本の生活に戻ってから暫くしてから、マラウイの情景がきっと原体験としてよみがえってくる、そういう場面が辛い時を含め多々あるかと思います。お子様方は、外地にいるからこそ逆に日本人を意識し、多文化の学校環境においては、日本の代表として自然に活動する「小さな外交官」になっていることを既に実感されているのではないかと思います。

第二に、英語教育の中で取得する英語能力と国際感覚は素晴らしいものです。国籍、人種は異なっても話をすれば必ず心が通じることを学び、それが信念にもなります。日本の学校では先生たちが決して教えてくれないことです。お子様方は、大学などで自らの意思で留学する以前に、こうした得難い経験をしておられます。他方、カルチャーショックも大変だと思います。インターナショナルスクールに転入した時も、そして逆に日本に帰った後もあります。この点は、今後の学び合いのひとつの論点かと思います。

第三に、日本に戻られる時、さまざまな帰国子女受け入れ制度があります。私自身は帰国

子女受け入れ制度が試行的に開始された時期に帰国しました。現在では、主要大学、小中高等学校で実に多種多様な形の受け入れ制度があり、拡大しつつあります。ネイティブ同様の英語力を求める学校、日本の受験生と同等の内容を求める学校、筆記試験を重視する学校、バカロレアやSAT等の資格や面接を重視する学校、学期途中の編入が可能な学校、学年を落として編入する必要がある学校もあります。同時に、個々の生徒の、外国で学んだ期間や様態など様々なので、対策も様々です。

日本での進学とは異なり、準備や対策も様々です。とても生徒ご本人の力のみで調べて最良の選択に辿りつけることは希でしょう。帰国子女の複雑なマッチングへの対応については、その意味で「家族力」が重要だと思います。帰国子女に関する様々な選択肢の中から、どの子にどの学校の受け入れ枠を見つけたチャレンジするかは、実際問題としてご両親の努力にかかる部分が大きく、特に日本での受験勉強と比べるとそういえるのかと思います。それでも、通常受験と比べてかなり有利な帰国子女枠は、チャンスですので日本の学校への進学を希望される場合には、是非良く調べて活用して頂ければと思います。

そして共通の課題は、英語の学校でまなびながらもどうやって日本語能力を維持・強化していくかという点であり、これが本日のテーマとなります。当地に定住して日本語を維持される場合と、赴任されている方々では事情は異なるかもしれませんが、普段家庭でどのようなことを意識され努力されているかについて意見交換をさせて頂ければと思います。

それでは宜しく願い申し上げます。

(了)